

# 設楽の城砦めぐり

## 白鳥山城編



白鳥山全景を望む

白鳥山城は、下津具大島地区の津具川左岸に聳える、標高九六八メートルの山で、県指定自然環境保全地域として保護されている。

中腹にある白鳥神社の花祭り舞堂の辺りに、館を構えたとされるが、その規模や構造を確認するのは難しい。

山頂部に平地や水場があったて、周囲は急斜面に囲まれているため、防御性の高い地形となっている。

城主は後藤九郎左衛門で、津具城を築く以前に居館を構えたとされる。

永禄五年（一五六二）今川氏真の命により、今川の東三河十七騎の一人である渡辺平内次に攻められ、落城した。

寛政四年（一七九二）に「後藤善心之塔」が舞堂の一角に移築され、常光寺（常楽館）に位牌が、中下留には善心の墓と伝わる宝篋印塔が残されている。

（愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊）